会 派 視 察 報 告 書

大崎市議会　政務活動概要報告書
令和 6 年 3 月 28 日 提出

1. 視察概要

会 派 名	公明党
視察者名	横山悦子、山田匡身
視 察 日	2024/3/26 12:00～13:00
視 察 先	茨城県・道の駅グランテラス筑西
出 席 者	横山悦子、山田匡身 後藤錦信、小嶋匡晴、只野直悦、法華栄喜、小玉仁志、

2. 視察内容

視察項目	複合型「ハイブリッド道の駅」と現状について
視察内容	「道の駅グランテラス筑西」は茨城県筑西市（人口約 10 万人）に位置しており、国道 50 号の道の駅であり、「農産物直売所」「レストラン」等の従来型の道の駅の設備に加え、手ぶらで楽しめる「BBQ」、「野外ステージ」、「キッズスペース（室内・外）」、「リラクゼーションルーム」、「スラックライン場」、「コンビニ」、24時間利用可能な「コインシャワー」や「コインランドリー」など多様な世代・ニーズに対応した施設があり、道の駅としては日本で初めて「Starbucks Coffee」も併設している。 令和元年度・2019 年7月に開業した道の駅である。北関東3県を東西に横断する主要幹線道路である国道 50 号沿線には、栃木県小山市の「道の駅 思川」から東の区間には、道の駅のような大型車にも対応した道路休憩施設はほとんど設置されていないことから、茨城県の西の玄関口であるとともに県西地域の交通の要衝であるとのことで推進協議会設置され、建設に至った。 「道の駅」は、「休憩機能」、「情報 発信機能」、「地域連携機能」を併せ持つ道の駅・グランテラス筑西は、オープンから約3年9か月で来場者 400 万人を達成し、当初の想定を上回る年間 100 万人以上の来場者を迎えているとのこと。地域に拠点施設として定着した一方、休日やイベント開催時は慢性的な駐車場不足が発生しており、混雑時には、道の駅北側に隣接する国道 50 号下館バイパスの道路拡幅用地の一部を臨時で国土交通省から借用し、応急的に対処しているとのことで、新たな駐車場の確保が課題となっているとのことでした。
他会派との合同実施	新生会

以 上

会 派 視 察 報 告 書

大崎市議会　政務活動概要報告書
令和　6 年　3 月 28 日　提出

1. 視察概要

会 派 名	公明党
視察者名	横山悦子、山田匡身
視 察 日	2024/3/26　14:30～16:30
視 察 先	栃木県・あしかがフラワーパーク
出 席 者	横山悦子、山田匡身 後藤錦信、小嶋匡晴、只野直悦、法華栄喜、小玉仁志、

2. 視察内容

視察項目	民間観光施設「あしかがフラワーパーク」の現状について
視察内容	「あしかがフラワーパーク」は栃木県足利市（人口約 14.3 万人）に位置しており、1968 年に「早川農園」として旧掘込町に開園し、以来 「250 畳の大藤」として愛されていたが、周辺が都市化し、市の都市開発計画や園の収益性の向上を求めて現在の足利市迫間町に移設し、「あしかがフラワーパーク」 としてオープンした。当初の敷地面積は 82,000 ㎡であったが、現在では園内の拡張整備も進み、100,000 ㎡ の敷地面積となっているとのことでした。「あしかがフラワーパーク」は毎年、年間来場者が 150 万人を超え、植物のテーマパークとしては日本最大規模を誇る。毎年 4～5 月に開催される「ふじのはな物語～大藤まつり」は名物となり、さらに草花が停滞期とされている冬季期間（10 月下旬～2 月上旬）にイルミネーションの技術を駆使した季節ごとの演出など様々な趣向で同園は 7 割を超えるリピートを獲得しているとのこと。また、2014 年にアメリカ CNN が「世界の夢の旅行先 10 カ所」として取り上げてからはインバウンド含む一大観光施設となったが、2019 年の台風 19 号の影響で園内全域が冠水。さらに新型コロナウィルスの影響で観光産業全体が危機に瀕したとのこと。しかし、足利市としては、地域の商業施設、宿泊施設、温泉などを含めた地域全体活性化の主軸の一つとして、あしかがフラワーパークをシンボリック的に取り扱い、足利市政 100 周年と同園のイルミネーション開始 20 周年の官民協業のコラボ事業**「光の花の庭」**を行ったり、地場の賑わいと人の流れをつくり、商業の活性に伴い新たな雇用を生み出すという、長期的な厳しい社会変動に向け、地場企業と地域の成長をパッケージとして官民連携で仕掛けている。
他会派との合同実施	新生会

以　上

会 派 視 察 報 告 書

大崎市議会　政務活動概要報告書
令和　6 年　3　月　28　日　提出

1. 視察概要

会　派　名	公明党
視察者名	横山悦子、山田匡身
視　察　日	2024/3/27　10:00～12:30
視　察　先	群馬県渋川市:渋川バイオマスエネルギー
出　席　者	横山悦子、山田匡身 後藤錦信、小嶋匡晴、只野直悦、法華栄喜、小玉仁志、

2. 視察内容

視察項目	渋川市における廃校を活用したバイオマスエネルギー
視察内容	群馬県渋川市における廃校を活用した「渋川バイオマスエネルギープロジェクト」について 渋川市が行う廃校施設利活用事業の事業者に決まり、「渋川バイオマスエネルギープロジェクト」を開始することになりました。2014 年 3 月末で閉校となった旧渋川市立上白井小学校に、「フォレストエナジー渋川バイオマス研究所」を設けて、最先端の木質バイオマス熱電併給設備等による研究開発拠点として、利活用していく事になった。 小学校の校舎や体育館を積極的に活用し、「再生可能エネルギー」、「農業」、「地域貢献」をキーワードにして、様々な取り組みを行うことで、渋川市が進める「持続可能な低炭素化を進めるまち」の実現に貢献するとともに、再生可能エネルギープロジェクト、農業プロジェクトによる雇用創出や、見学者の来場による地域経済の活性化などを実現していきたいと考えていました。加えて、本小学校は、市の指定避難所であり、将来的に、災害時等の停電時にも、当該小学校へのエネルギー供給が継続できるオフグリッドシステムの導入もしてきました。 すでに、校舎内には、フォレストエナジーの渋川オフィスや地域交流スペースも設けており、これから各種設備を設置していく事でさらに活用方法を拡大してきました。今後も、小学校の有効活用とプロジェクトの実現に向けて、積極的に取り組んでいき地域とさらに協力してモデルになる地域を目指していく。
他会派との合同実施	新生会

以　上

会 派 視 察 報 告 書

大崎市議会　政務活動概要報告書
令和　6 年　3　月　28　日　提出

1. 視察概要

会 派 名	公明党
視察者名	横山悦子、山田匡身
視 察 日	2024/3/27　13:00～14:30
視 察 先	群馬県・道の駅「川場田園プラザ」
出 席 者	横山悦子、山田匡身 後藤錦信、小嶋匡晴、只野直悦、法華栄喜、小玉仁志、

2. 視察内容

視察項目	道の駅「川場田園プラザ」の現状について
視察内容	「道の駅 川場田園プラザ」は群馬県利根郡川場村（人口約 3500 人）に位置しており、群馬県道 64 号平川横塚線の道の駅である。同道の駅は平成元年～2 年の”世田谷区民健康村第 2 期の運営と整備に関する指針”の検討段階で、川場村の多機能としての田園プラザの開発と、世田谷区との事業協力の必要性が提案された。これを受け川場村過疎計画（2 年）、川場村総合計画（3 年）の中に位置づけられ、田園プラザ推進委員会・幹事会で構想が策定され、1998 年に開業した。 「川場田園プラザ」では3つのコンセプト「広場を中心として回遊できる施設」・「非日常感と安心感を演出する建物群」・「長時間滞在できる道の駅」を掲げている。同道の駅において来訪者は広場を中心に休憩をしながら、施設内を回遊することができ、伝統的な農家建築をモチーフにした建物群は、東側、北側の車道と駐車場への視線を遮るように、そして、広場を囲むように配置されている。施設内には「ミルク工房」、「ミート工房」、「ファーマーズマーケット」、「レストラン」、「ブルーベリー公園」などがあり、広場の芝生やテラス席の他、施設内の各所にベンチなどもある。そのため、広場は日よけや木陰も多く、ゆっくり休憩するのに適している。 通常、道の駅は、ある程度の来場者を見込める場所に計画することが多い。しかし道の駅川場田園プラザは、人口 3500 人ほどの山村にあり、山間の行き止まりのような場所で、周囲に強力な観光資源もなく、交通量も少ない県道沿いという条件のもとで始まった。道の駅川場田園プラザには、年間 180 万人が訪れ、そのうち 7 割が首都圏からの来訪者であり、さらにそのうち 4 割が年間 3 回以上訪れる、いわば「ヘビーリピーター」であるとのこと。また、災害時の防災拠点として備蓄庫やヘリポートなどを備えており、2021 年には群馬県内で唯一「防災道の駅」として選定されている。
他会派との合同実施	新生会

以　上

会 派 視 察 報 告 書

大崎市議会　政務活動概要報告書
令和 6 年 3 月 28 日 提出

1. 視察概要

会 派 名	新生会
視察者名	横山悦子、山田匡身
視 察 日	2024/3/27 15:30～16:00
視 察 先	群馬県・道の駅まえばし赤城
出 席 者	横山悦子、山田匡身 後藤錦信、小嶋匡晴、只野直悦、法華栄喜、小玉仁志、

2. 視察内容

視察項目	「道の駅まえばし赤城」の現状について
視察内容	「道の駅まえばし赤城」は前橋市田口町(人口約 33.1 万人)に位置しており、国道 17 号と上武道路の交差地に位置する群馬県内 33 番目の道の駅である。基本機能として休憩機能、情報発信機能、地域連携機能を備え、道路利用者の利便性向上及び安全性確保、災害時の防災拠点の機能に加え、地域活性化を実現するとともに、上武道路を利用する人が本市内で滞在する機会をもたらし、地域との関わりの入り口となることを目的としている。また、官民連携を前提とした整備運営を目指し、民間事業者のノウハウおよび事業提案を効果的に活用するために『独立採算型PFI(Private Finance Initiative)と公設民営の複合型』を取り入れ、2023 年 3 月にオープンした新しい道の駅である。 「農産物直売所」「レストラン」等の従来型の道の駅の設備に加え、「農畜産物販売所」、「温浴施設」、「野外ステージ」、「キッズスペース(室内・外)」、「ドッグラン」、「サイクルステーション」、さらに「観光案内所」を併設し、多様な世代・ニーズに対応した施設がある。また、屋外には広大な芝生広場、屋根付き屋外広場やマーケット広場があり、年間 50 以上のイベントを開催しているとのこと。 年間来場者数や課題点ついては、オープンから約 1 年程度のためこれからになるが、来場者数は概算で年間 400 万人程度になるだろうとのこと。
他会派との合同実施	公明党

以　上